

発達保育実践政策学センター
公開シンポジウム

園調査の結果から 調査の意義と課題

秋田喜代美

(東京大学大学院教育学研究科)

保育の質調査

- ◆ 「質の確保」を越え、「質の向上」を考える際には、文化的価値が関与。
- ◆ 本調査：観点の提示により強み弱みの傾向を明らかに。一方でこの観点以外や詳細部分は捉えられない。状況での細やかさ、「加減」は自己評価では見えない。
- ◆ 今回の量的調査：平均、分散、分布を問題にしているので、特定施設形態全般の評価ではない。特定一時点の調査。

保育環境

- ◆ 園内外環境：東京23区の差
すべての子どもも良質な環境のための
手立てが必要
- ◆ 園外：体を動かす遊びの重要性と同時に、
戸外のさまざまな活動の持つ意味をさら
に検討をしていく必要性

関わりの質

- ◆ 「好奇心・探求心をふまえた遊び・活動の支援」（3歳児・5歳児クラス）、
「温かく受容的な雰囲気」（5歳児クラス）は保育者個人に帰せられるのみでなく体制を考えることが必要。
- ◆ タイムマネジメント、職場環境、保育環境のデザインのイノベーションが必要
- ◆ 創造性 深い関与、挑戦が出来ること

リーダーシップ

- ◆ 教育的リーダーシップは国際的に喫緊の重要課題。その全体像を明らかにした。
- ◆ 学び続け、育てる園長、主任像。リーダーは園内・園外の知的インターフェイスの役割を担う。チェンジエージェント、モーションリーダーシップ
- ◆ 本調査結果 資格、経験年数、研修

今後への課題

学術的課題

- ◆ 園単位での多様な要因間の関連性の検討
(研修、カリキュラム・計画、保護者等との関係)
- ◆ 自治体政策一園一職員間の影響の検討

今後の課題

実践・政策

- ◆ 全ての子ども 特別支援等のあり方
- ◆ 各施設種類や自治体事情を加味した、質向上のための可能性の解明
- ◆ 研修内容の充実のための質的検討
- ◆ 家庭一園の連携の在り方